

H.30
(2018年)

六月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

正しい『ものの見方・考え方』を説くのが仏教

人間は、欲望(食・睡眠・性・財産・名譽欲など)を捨てられず願い事をし・現世利益を求め、思い通りになれば『ご利益があつた』と神・仏を信じます。が、願いが叶い・志望校に入学しても、実力不足などで苦悩する者もいます。何が正しく・何が間違いかなど、人間には分からないので『神・仏に願う心を無くせ』と仏教は説きます。

親鸞聖人は、怪我や病気をする事で健康の有り難さ・人の思い遣りの心が分かるなど、「生きる意味と喜びが生まれる事が御利益」と説かれました。法然上人は『ただ念佛(南無阿弥陀仏)し・救われなさい』と教えました。念は今の心と書き、今の自分と向き合うのが念佛です。

インドの挨拶『ナマステ』から『ナマス=南無は、頭を下さげて拝みます・テ=貴方に』の意味です。南無阿弥陀仏とは、身勝手な考え方で、善悪・幸不幸・苦楽などを決めます。私に『お前それでイイのかとの、私への呼び声』で『仏様に全て任せます』と、私の心を表した言葉なのです。

主な参考資料

(1)川村妙慶(著)『ほつとする親鸞聖人のことば』、(一玄社、p.78)(2010年)。

(2)黒田進(著)『僧侶31人のぼけうと法話』、真宗文庫、p.9~14(2016年)。

(3)ひろきちゃん(著)『ほつとする仏教の言葉』、(一玄社、p.124~127)(2011年)。